

一志温泉やすらぎの湯経営改善方針について

1 経過等

一志温泉やすらぎの湯（以下「やすらぎの湯」という。）は、保健センター、在宅介護支援センター、図書館などとともに、合併前の一志町における保健、福祉、生涯学習の拠点として整備された複合施設「津市とことめの里一志」内の温浴施設として、平成9年5月に開設され、累計利用者数は約731万人を数え、現在も1日当たり約1,100人の方々が訪れる地域に欠かせない施設として定着しています。

2 現状と課題

(1) 経営状況

やすらぎの湯の平成26年度の利用者数（3-参考2）は約35万人と平成13年度のピーク時に比べ約4分の3に減少しています。また、使用料収入についても、利用者数と同様に減少し、平成26年度にはピーク時の約2分の1に当たる約7,000万円まで減少しています。

利用者数及び使用料の減少の要因としては、利用者の高齢化並びに新規利用者の獲得が少ない等に加え施設の老朽化が考えられます。

また、人件費や消耗品費、タオル（バスタオル及びフェイスタオル）の無料貸出しによるクリーニング経費の負担が大きく、年間収支は、平成26年度は約2,760万円、平成27年度は約2,521万円の赤字となっています。

(2) 効果的な経営改善の必要性

市議会、監査委員などから意見や指摘を受け、経営改善に向けて会員使用区分（年会員券）やタオルの無料貸出しの在り方の分析や検討を進めてきましたが、局所的な見直しではなく、抜本的な改革を行わなければ経営の改善は見込めず、歳入・歳出の両面から効果的な経営改善が必須となります。

しかしながら、同施設は、住民の健康保持及び保健意識の向上並びに福祉の増進を図るため設置された津市とことめの里一志の中の一つとして位置付けられており、主に健康、福祉に視点を置いた施設となっていることから、健全経営が望ましいところですが、収益の観点だけではなく、市民

に憩いの場として楽しんでいただける施設として、一定の受益者負担をお願いしながら、持続性のあるサービス提供をしていく必要があります。

3 経営改善策の検討とその方向性（歳出分）

やすらぎの湯では、歳出に係る手数料、消耗品費及び人件費の占める割合が高くなっており、これらの経費を削減することが必要不可欠となっています。

(1) 手数料

手数料については、手ぶらで日帰り入浴ができる施設として、タオルの無料貸出しをサービスの一環として行っていますが、クリーニング経費が高額であることから、当該経費の圧縮を行う必要があります。

タオルの無料貸出しを廃止することにより、約1,550万円の削減を図ることが可能となります。

なお、タオルの無料貸出しの廃止に伴い、利用者のタオル持込みを可能とするとともに、必要な利用者にはタオルの有料貸出しや販売を行います。

(2) 消耗品費

消耗品費については、タオルの無料貸出し廃止に伴うタオル購入費約180万円の削減のほか、ボディソープなどの消耗品の仕様の見直し等を行い、約210万円の削減を図ります。

(3) 人件費

現在、臨時職員がタオルの受渡しや回収等に従事していますが、タオルの無料貸出し廃止に伴い、受付や使用済みタオルの回収人員を2名削減することが可能と考えられ、その人件費約660万円の削減を図ります。

(4) その他

上記(1)から(3)までの改善を行った場合、約2,420万円の削減が見込まれ、赤字の大半が解消されますが、今後も更なる経費の削減に努め、経営の健全化を図ります。

4 公共下水道接続による新たな費用の発生

津市とことめの里一志は、平成27年度末に公共下水道が設置され供用開始がなされたことに伴い、津市公共下水道条例第3条に基づき平成30年度から公共下水道に接続することになっており、今後新たに発生する公共下水道接続に係る費用として、平成28年度及び平成29年度に合わせて約1,250万円必要となり、さらに、平成30年度からは年間約2,000万円の下水道使用料が発生することが見込まれるため、これまで以上に経費の削減

に努めなくてははいけません、今後経費の削減だけでは下水道使用料を補填することが非常に困難になります。

5 経営改善の検討とその方向性（歳入分）

やすらぎの湯の歳入は、当日券、回数券及び年会員券の区分からなる使用料であり、平成26年度及び平成27年度におけるそれぞれの利用者数及び使用料（売上）は3－参考2のとおりです。

平成26年度の全体の利用者数は、35万577人であり、その内、年会員券での延べ利用者数は22万9,449人で約65%の方が利用しています。

なお、年会員券購入者は約1,000人であり、平均1人年間約200回利用しています。

このような中、一部年会員券廃止の指摘を頂いている状況ですが、開設以来、定着している年会員券を廃止した場合、約65%の方に影響が出ることから利用者数の激減は避けられず、それにより、歳入が減少し、現在の赤字額がますます増加することも考えられます。

利用者アンケートの結果でも、「年会員券の値上げには応じるが廃止には賛成できない」という強い意見があり、また、「年会員券の値上げは5,000円から1万円位までが妥当」などの声を頂いています。

これらのことから、年会員券の取扱いについては、廃止をするのではなく、新たに発生する下水道使用料を多少なりとも補填するため、年会員券を値上げして対応する方向で考えています。

上記のことから収支を黒字化するためには、年会員券を約2万円値上げする必要がありますが、利用者アンケートの結果からも極端な値上げは利用者激減を招くおそれがあり、1万円程度の値上げが限界であると考えことから、年会員券購入者約1,000人分の増収額1,000万円を見込み、それにより下水道使用料の約2分の1を補うことが可能となります。

また、年会員券以外の利用者増を図る施策として、多くの親子や家族で利用できる施策の検討も必要であることから、12歳未満の年会員券の使用料は改定せず、当日券及び回数券の値下げを図る方向で考えています。

6 改善策のまとめ

考え得る方策を当てはめ、黒字化を図る分岐点を見だし、経営の健全化を検討した経営改善シミュレーションの結果、改善案（3－参考3）の概要中④案の年会員券2万円値上げ（一般及び65歳以上）、12歳未満の当日

券100円及び回数券1,000円値下げ、タオルの無料貸出し廃止、タオル1組100円の有料貸出しが5年間の累計で唯一黒字化できる案となります。

しかしながら、やすらぎの湯の設置目的等を勘案し、極力赤字を抑える方策として、④案の年会員券の値上げ額を1万円に置き換えた（一般及び65歳以上）③案での対応とし、今後5年間の推移を注視しつつ、更なる経営改善の意識をもって、安定した経営につなげていきます。

また、経営状況の改善を図りつつ、指定管理者制度の導入の検討や市内他の温浴施設との共通利用化も視野に入れ進めていきます。

7 新たなサービスの提供

年会員券の値上げに対して新たな年会員等向けのサービスを実施します。

(1) 年会員券利用者へのサービス

年会員券購入時に、温泉内リラックスクーナーに設置されている健康器具（身体固定式全身指圧温熱治療器）2台（200円/回で15分）を月誕生日（年間12回）に1回利用できる無料利用券及び1年間有効のレストハウス補助券（100円×5枚、1回につき1枚の使用）の進呈を行います。

(2) 新たな利用者獲得の方策

施設利用者全体の利用者獲得を目指すため、次のような企画を実施します。

和室舞台を利用した趣味等の発表の場や和室を利用した絵画・写真等の展示スペース（いずれも無料）の提供、みえ出前トークを利用した健康や食をテーマとした講座開催等を実施します。

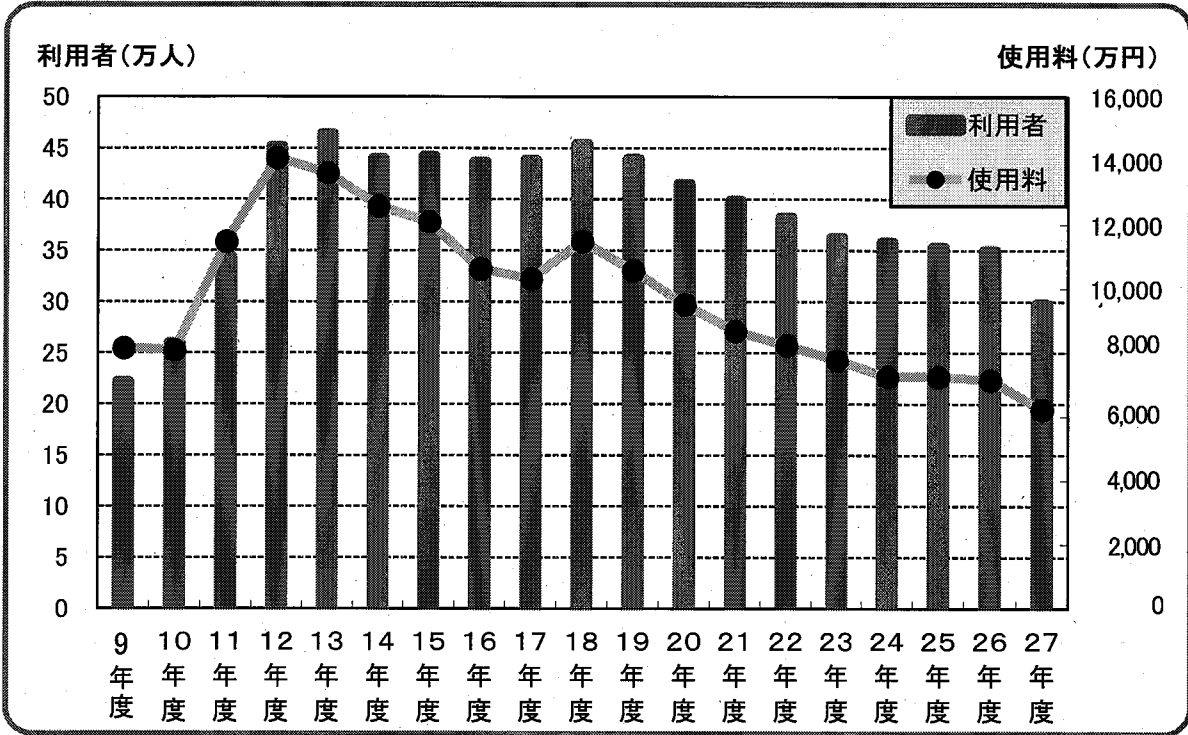
8 今後のスケジュール

(1) 津市とことめの里一志の設置及び管理に関する条例の一部の改正についての議案を平成28年第3回津市議会定例会へ提出する予定です。

(2) 広報津や津市ホームページなどで改善策の周知期間を設け、年末年始を避けた平成29年1月末日をもってタオルの無料貸出しを廃止します。

また、平成29年4月1日以降販売する年会員券の値上げ及び12歳未満の使用料の値下げを実施し、さらに、新たなサービスを提供し引き続き健全経営に努めていきます。

やすらぎの湯年度別利用者数・使用料の推移



平成26年度及び平成27年度やすらぎの湯利用者数・使用料

		当日券	回数券	年会員券	計
平成26年度	利用者数	83,779人	37,349人	229,449人	350,577人
	使用料	36,262,250円	12,513,500円	22,752,000円	71,527,750円
平成27年度	利用者数	69,904人	30,715人	197,669人	298,288人
	使用料	30,123,750円	10,316,000円	21,994,000円	62,433,750円

改善案の概要

		現 行	① 案	② 案	③ 案	④ 案	
歳 入	年会員券の取扱い	—	廃 止	改定なし	10,000円値上げ (一般及び65歳以上) 当日券 100円値下げ 回数券 1,000円値下げ	20,000円値上げ (一般及び65歳以上) 当日券 100円値下げ 回数券 1,000円値下げ	
	12歳未満の値下げ	—	改定なし	改定なし	廃 止	廃 止	
歳 出	タオル無料貸出し	—	廃 止	廃 止	廃 止	廃 止	
使用料	当日券	— 一般	550円	改定なし	改定なし	改定なし	改定なし
		65歳以上	350円	改定なし	改定なし	改定なし	改定なし
		12歳未満	300円	改定なし	改定なし	200円	200円
	回数券	— 一般	5,500円	改定なし	改定なし	改定なし	改定なし
		65歳以上	3,500円	改定なし	改定なし	改定なし	改定なし
		12歳未満	3,000円	改定なし	改定なし	2,000円	2,000円
	年会員券	— 一般	30,000円	廃 止	30,000円	40,000円	50,000円
		65歳以上	20,000円	廃 止	20,000円	30,000円	40,000円
		12歳未満	12,000円	廃 止	12,000円	12,000円	12,000円
	タオル	1 組	0円	100円	100円	100円	100円
平成 28 年度	歳入一歳出	△2,631万円	△2,381万円	△2,381万円	△2,381万円	△2,381万円	
平成 29 年度	歳 入	6,985万円	6,157万円	7,372万円	8,126万円	9,056万円	
	歳 出	9,696万円	7,595万円	7,595万円	7,595万円	7,595万円	
	歳入一歳出	△2,711万円	△1,438万円	△223万円	531万円	1,461万円	
平成 30 年度	歳入一歳出	△4,585万円	△3,036万円	△1,797万円	△1,010万円	△80万円	
平成 31 年度	歳入一歳出	△4,550万円	△2,993万円	△1,735万円	△933万円	△3万円	
平成 32 年度	歳入一歳出	△4,531万円	△2,998万円	△1,780万円	△978万円	△48万円	
平成 33 年度	歳入一歳出	△4,531万円	△3,051万円	△1,780万円	△978万円	△48万円	